

# 会員のば

## 北海道医学会と 北海道医学大会設立の経緯

北海道大学医師会  
公益財団法人 札幌がんセミナー理事長

小林 博

「93年という長い歴史を持つ北海道医学大会に深い敬意を表します」

平成25年（2013年）9月28日、札幌グランドホテルで開催された第93回北海道医学大会。特別講演をされた自治医科大学学長の永井良三先生はそのようにお祝いの詞を述べられた。この医学大会の誕生に関わった者の一人として当時のことを少し振り返ってみたい。

まず大会の回数について疑問があると困るので説明したい。北海道医学大会は昭和43年（1968年）にスタートした。だから厳密には46年の歴史となる。それがなぜ第93回なのか？ 実はこの数字は以前から存在する「北海道医学会大会」の開催回数を加えたものなのである。

北大医学部を母体に「北海道医学会」が大正7年（1918年）に設立された。その第1回大会が大正12年（1923年）6月15日、北大の中央講堂で開かれた。

これが「北海道医学会大会」で、以後毎年開催されることになった。同時に「北海道医学雑誌」第1巻第1号を同年8月に発行した。

「医学会大会」と平成の現代の「医学大会」。「会」の一字のあるなしで誠に紛らわしい。「医学会大会」はいま述べたとおりだが、一方の「医学大会」というと、ずっと後の昭和43年9月の設立。

北海道医師会が世話役となり、北大医学部のほか新設の札幌医科大学を加えた三者による「北海道医学大会」を開いた。これが真正の第1回ではあるが、その回数が北海道医学会大会を加算して「第46回医学大会」となった。昭和50年には旭川医大も加わって第53回から今の形の四者による大会になった。

それでは「医学会大会」はどうなったかという、新しい「医学大会」が発足した後も何回か開催されたが、やがて開かれなくなり自然消滅した形になった。「北海道医学大会」と一体化した感じである。

だが、母体の北海道医学会は勿論、現在も健在である。新しい大会が発足した後も存続すべきであるとの考えから組織は維持された。機関誌「北海道医学雑誌」は絶えることなく刊行され、日本医学界への貴重な独自の貢献を果たし続けてきた。同医学会は北大医学部内に事務所をおいて新たな飛躍を考えていると聞く。

繰り返しになるが、「医学会大会」と「医学大会」。名称は似ているが各々違った消長、発展の経緯を持つ。だが両者とも北海道医学の重要な支え役であり、現在の「医学大会」は前身ともいえるべき「医学会大会」からの通算回数で開催される。

北海道医学大会は大正12年から起算して平成32年、2020年に第100回を迎える。たまたま東京オリンピックの年でもある。ちなみに北大医学部の創立は大正8年（1919年）なので、その100周年のお祝いはオリンピック前年の2019年となる。



北海道医学会第一回総会記念写真 大正12年6月15日 北海道大学中央講堂

## 珍種でしょうか？！

苫小牧市医師会  
王子総合病院

松井 あや

私は、平成14年旭川医大卒の外科医です。医学部同期の約3割は女性でしたが、まだまだ外科を志す女子は少数派でした。新医師臨床研修制度はまだまだなく、卒業時には志望科と入局先が決まっている学生がほとんどでした。外科をやってみたいがどうしても女子には敷居が高いと思っていた私に、学生説明会の席で私の目を褒めていただき、「途中で辞めることになっても外科は潰しがきくからやってみれば」と勧めてくれたのが、当時教室の医局長をされ現・北大消化器外科学Ⅱ教授の平野聡先生でした。卒業年のバレンタインデーにチョコレートを携え、当時教授をされていた加藤紘之先生に入局の挨拶に…。あれからもう丸12年が経ちました。

古くは小学校の通信簿の評価欄に「もう少し根気強く何事も取り組めるといいですね」と書かれ、何事にも長続きしなかった私ですが、今日まで外科医を続けることができました。最新の知見が次々に登場し、自らの知識をアップデートし続けていくことも容易ではありませんし、解剖についての知識も不十分、もちろん手技の面でもまだまだ未熟者ですので、すべきことは常に山積みです。が、その向上への過程は非常に楽しく感じられます。今にして思うと、自分のキャラクターは、何にでも分け隔てなく粘り強く取り組めるタイプではなく、興味のあるところに集中して気持ちが向かうタイプであり、それは持って生まれたものだったのだと思います。

これまで全道各地の関連病院で研さんを積み重ねていただきました。多くのスタッフの先生にとって、女子が赴任するのは初めてのことであり、きっとこの珍種をどう扱ったらいいのかとご苦労をかけてしまったと存じますが、いずれの病院においても温かくご指導いただき、育てていただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

最近、外科の全国学会でも女医さんが非常に増えたなという印象を強く受けます。また現在の勤務先には、卒後3年目の女医さんがおります。女二人、向かい合って（あるいは並んで）手術…などということもあり、そのような状況に私は一人、感慨に耽っております。もう女性外科医は珍種ではない、そんな時代が来つつあるのでしょうか。

この先も自分自身、まだまだ成長しなければいけません。同時に多少なりとも後輩のお役に立てるよう、頑張ってお参りたいと思います。

## 小児科外来の「幸せ」

札幌市医師会  
宮の沢小池こどもクリニック

小池 明美

小児科医になり早いもので30数年、外来でたくさん子どもたちと会い、たくさんの「幸せ」を頂いている。気分が滅入っていても、子どもの笑顔に会い、一発で治ってしまい、やっぱり頑張ろうと何度思ったことだろう。以前は小児科外来と言えば女性専用外来のようで、成人男性にめったにお会いすることはなかった。しかし、このごろは「先生、一晩中咳が止まらないです」とイケメンの育メンの父が娘を連れてくる。韓ドラでも十分いけますという感じの父で、これも小さな「幸せ」かもしれない。

毎日の外来がちょっとつらいかなと思い始めたころ、友人の紹介で子育て中の女医さんに会った。彼女は3人の子育て中で、通常の勤務医が難しいとのことだった。私は幸か不幸か「子なし」のため、勤務医を20年ほど続けられたが、子育て中の彼女は、家族か勤務先の協力なしにはなかなか大変と思われた。でも本音は臨床を続けたいとの希望で、彼女のできる範囲で月2回ほど外来をお願いした。彼女のおかげで、平日の休暇というありがたい「幸せ」を頂いた。

長男の嫁で、一人娘の私は、母たちの介護や時々看病があり、病院へ連れて行くなど平日の空き時間がさらに必要になったころ、もう一人の子育て中の女医さんを紹介された。彼女は臨床をしばらく離れていて、一人で外来をするには勇気がいるようだった。おせっかいな私は数ヶ月の間、週に1回、一緒に外来を開始してみた。優秀な彼女は、すぐに独り立ちして、今は週に1回のペースで午前中の外来をおまかせしている。

女性の社会進出が政府からも推奨され、女医さんの社会復帰、就職等もかなり前から云々言われているが、もし私と同じくらい、外来で疲れてきた方がいらして、まわりに子育て中の女医さんがたまたまいらしたら、私のようなこんなやり方で、両方の「幸せ」が得られるかもしれません。

# 体重減少の効果が目立った 症例報告 2 例

恵庭市医師会  
アートライフ恵庭

笹森 繁

## 1)「体重減少したらECG改善」

当たり前といえば当たり前のことですが、こんなケースはまれなケースと思い報告します。

93歳の女性、平成25年3月8日のECGで特にV1～V6で著明なST低下、T波逆転あって（図1）、7ヵ月後の平成25年10月15日のRCG（図2）はベッドサイドでポータブルECGのため、少しスタイルが変わっていますが、ST、Tの著明な改善が見られます。その間の体重減少は7kgです。

93歳で食事が摂れなくなりましたが、本人および家族はPEGを希望せず、また既に15年間で4つの病院にかかってきており、施設での終末ケアを希望されての体重減少でした。

このケースは高齢でかつ特殊な事情のケースですが、もし40～50歳台の人で肥満体の人ならダイエットが大切な選択肢になりそうです。

## 2)「体重減少したら血液、尿データ改善」

これも当たり前といえば当たり前のことですが、データを見せられればなるほどと思ってしまうます。ご報告します。

42歳の男性、平成25年5月14日のデータはAST、ALT、中性脂肪、血糖値、HbA1cが高値で尿蛋白（1+）、尿糖（1+）でした（図3）。平成25年10月21日のデータはすべて改善されています（図4）。その間の体重は、89kgから74.8kgで、約5ヵ月間で14.2kgの減少です。本人の努力の成果です。やはりダイエットは肥満体の人には大切な選択肢になりそうです。

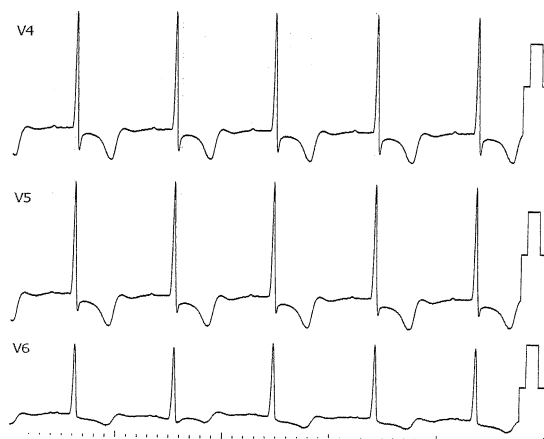


図1 誌面の都合でV4～V6のみ

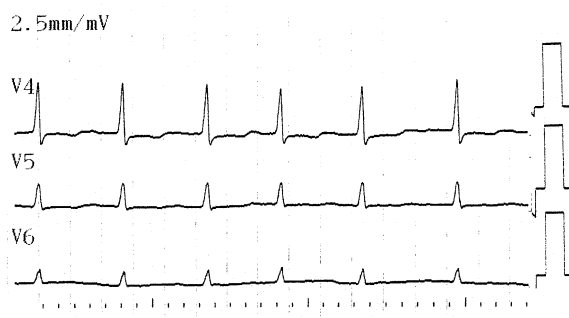


図2 誌面の都合でV4～V6のみ

年 齢 42 受付 25/ 5/14  
採取 5/14

アルカリホスファターゼ	ALP	241		U/I	104-338
AST (GOT)	GOT	46	↑	U/I	10-40
ALT (GPT)	GPT	65	↑	U/I	5-45
中性脂肪	TG	448	↑	mg/dl	50-149
HDL-コレステロール	HDL	42		mg/dl	40-80
LDL-コレステロール	LDL	135		mg/dl	70-139
グルコース	血糖	157	↑	mg/dl	70-109
HbA1c	HbA1c	8.6	↑	%	4.6-6.2
蛋白	蛋白	(1+)	↑		(-)OR(+)
糖	糖	(1+)	↑		(-)OR(+)

図3 誌面の都合で異常項目のみ

年 齢 43 受付 25/10/21  
採取 10/21

アルカリホスファターゼ	ALP	185		U/I	104-338
AST (GOT)	GOT	17		U/I	10-40
ALT (GPT)	GPT	13		U/I	5-45
中性脂肪	TG	102		mg/dl	50-149
HDL-コレステロール	HDL	42		mg/dl	40-80
LDL-コレステロール	LDL	114		mg/dl	70-139
グルコース	血糖	106		mg/dl	70-109
HbA1c	HbA1c			%	4.6-6.2
蛋白	蛋白	(-)			(-)OR(+)
糖	糖	(-)			(-)OR(+)

図4 誌面の都合で異常項目のみ



## 急場をしのご

札幌市医師会  
勤医協札幌西区病院

### 松谷久美子

キューバの首都ハバナ空港に到着したのは夜10時を過ぎていた。省エネなのか、著しく薄暗い空港であった。到着時刻はすでに40分以上遅れていた。私が遅らせたのだ。久々に受け取った紛れもない私の旅行鞆をガラガラいわせながら、到着ゲートを潜って闇が漂うロビーにでた。そこでは、赤シャツの日焼けしたおじさんが、私の名前を書いた画用紙を高く掲げて待っていてくれた。それを見つけた時のうれしかったこと、地獄に仏とはこのことだ。

そもそも、千歳空港でカウンター嬢が、中継地でいったん荷物を受け取り、再びセキュリティを通過してハバナへ向かうなんて言うものだから、トロントでそれこそとろんと荷物を待っていたのだ。30分以上待っても見覚えのある私のトランクは出てこなかった。目を皿のようにして睨んでいたのに。しかも、すでに乗り継ぎ便には間に合わない時刻になりつつあった。旅行客がひけてがらんとしたホールを見渡し、職員をやっと捕まえ、乗り継ぎの荷物を待っているがでてこないことを告げると、次の便に積んであると当たり前のように答えた。それから、今ではどこをどう通ったのか詳細には覚えていないが、ハバナへ行く飛行機に乗りたいたいこと、すでに時間は過ぎていることを捕まえた職員に語り、セキュリティを乗り越え、到着ターミナルを斜めに走り、3階から1階出発ターミナル175番のゲートを目指して突っ走った。この175番も“one o seventy-five”と教えてもらったような気がしたので、てっきり1075番だろうと思い、そんな番号がないのでまたしても迷った。天井では、ハバナへ行く飛行機の最終案内が何度も流れ、なんだか私の名前さえ呼ばれていたような気がした（のは気のせいではなかった）。しかもキューバ行きの175番ゲートは、案の定出発ターミナルの遥か知床の果てにあった。

息も絶え絶えでたどりついたカウンターでは、金髪の女性が毛を逆立てすっきりと仁王立ちしていた。何故遅れたのか、違うゲートへ行っていたのかと畳みかけられたので、荷物を待っていたのだと弁解したが、全く共感を示さなかった。日本なら「それは大変でしたね」とねぎらってもよさそうなシチュエーションだと思うが。体中汗だくになり、まだ呼吸も整わなかったが、それでも飛行機の機内へ入ってもらえることができた。

あとでたまたま会った日本人によると、女性2人が飛行機に乗り遅れ、次の日に乗ったということが

あったそうだ。そうすると私は以外にラッキーだったのかもしれないと思う。

## 癒しの香り

札幌市医師会  
札幌里塚病院（非常勤）

### 土田めぐみ

私たちの生活は、香りで満ちています。心地良い香りは、幸せな気持ちになり、人生を豊かにしてくれます。以前より、香りには興味があり、現在就寝前に愛用しているのは、“ベルガモット”というミカン科の果皮の精油です。紅茶のアールグレイの香り付けに用いられており、親しみやすい香りです。

香りで心と身体の療法を癒そうという試みが、アロマセラピー（芳香療法）の始まりです。1920年代、南フランスのプロバンス地方において、香料の研究者であったルネ・モーリス・ガットフォセによって、花や木など植物に由来する芳香成分（精油）は、心身の健康や美容を増進する効果があると提唱されました。現代ではいろいろと研究が進み、アロマ（芳香）で認知症の改善と予防ができるのではと期待されています。

アロマで嗅神経を刺激すれば、海馬の機能が回復し、また、嗅神経は再生能が高く、香りによって一度弱った神経細胞が蘇ると言われています。

65歳以上の10人に1人が認知症と言われる今日で、西洋医学とアロマセラピーの併用で、認知症の改善が認められれば、年を重ねるのも楽しくなりそうです。

鳥取大学の浦上教授の研究によりますと、昼夜で異なるアロマを使用し、昼はローズマリーとレモンで集中力を高めて記憶力を強化し、夜はラベンダーとオレンジで心や身体への鎮静を促します。それぞれ2時間ずつ続けると、効果が期待できると記されています。

早速、80歳になる母と、“天命を知る”年齢になり、このごろ物忘れを自覚するようになった自身で試してみることにしました。たまたま都合の悪い真実は忘れたい時もあるので、ほどほどに効果が出ればいいなあと期待して、続けてみようと思います。



BERGAMOT

## 私の趣味はカーリング

苫小牧市医師会  
苫小牧緑ヶ丘病院

### 栃木 昭彦

2月18日、カーリング女子日本代表はスウェーデンに惜敗し、ソチ五輪を戦い終えました。メダルは逃したものの、5位入賞と大健闘！ たくさんの感動も与えてくれました！

私が考えるカーリングで大切なことを書かせていただきます。

#### ① デリバリー（投球動作）の正確さとメンタルの強さ

40m先のハウスに向かって、場合によっては1～2cmを競うカーリングは、デリバリーが安定していないと正確にストーンを配置することができません。そして、0.1秒単位でストーンの速さを調節して投げるのですが、心の中で少しでもマイナスイメージが湧くと、ストーンのラインがずれたり、スピードがずれたりします。しかし、他の2人のスイーパーがそのミスを帳消しすべく激しくスイープし、スキップは瞬時に違うプランへと変更して、投球者のミスを成功のショットに導くこともできます。ミスを成功にしたショットを決めると、結束力と充実感が得られ、4人で喜びを共有できます（この瞬間が楽しい！）。

#### ② 作戦の一致と状況判断

カーリングでは、囲碁、将棋のように先の先を読んだ作戦と、状況判断が必要です。試合の序盤では、アイスが重くストーンは滑りづらい曲がりづらい。試合の中盤では、使っているラインでは滑りやすく曲がりも大きくなる。試合の終盤では、再びアイスが重くなり荒れてくるため、ストーンが予想外の動きをするラインも出てきて、勝敗に影響することもあります。その状況判断を4人で逐一コミュニケーションをとり、最高の作戦とショットをメイクしていきます（室内やアイスの温度、除湿器や換気扇の場所などもストーンの動きに影響します）。

#### ③ チームワークの良さ

これが一番大事な要素です！「どうしてカーリングの代表は上手な選手を集めた選抜チームにしないのか？」と議論されることがあります。4人という少人数の団体スポーツなので、チーム内のちょっとした不協和音はすぐにメンタル面に影響し、ショットのミス、作戦の不一致による瞬時の判断ミスにつながります。よって、チームのメンバーは、他のメンバーへの思いやりの気持ちを持っていないと強いチームにはならないと思います（スキップは、譲らない性格の人が比較的多いように思います…）。

現在、当院の看護師2名、作業療法士2名と私、5名のチーム構成でカーリングを楽しんでいます。この年齢になっても、学生時代の部活のようにすべてのことを忘れて勝負に情熱を燃やせる時間があることはとても貴重です。試合後の宴会の席では相手チームとの交流もとても楽しく、友達の輪が広がります。カーリングは、とても楽しく、面白いスポーツです！



当院カーリングメンバー



当院体育館での筋トレ



長野五輪代表・敦賀選手と一枚

## 羽田空港の思い出

札幌市医師会  
札幌立花病院

### 笹岡 彰一

2月8日、とある学会の専門医セミナーが千葉市で開催された。まさにその日、関東は暴風雪のただ中であつた。当日帰る予定の先生方はかなり心配した様子だった。私は翌日夕方の飛行機なので、気楽なもの。でも悪天候やら旅行気分やらで、早々にセミナー会場から退散した。しかし、9日の東京の空は晴れ渡っていたのに、羽田に着いてみると予約便に欠航と表示されていた。ダイヤの乱れが大きく、機材繰りのため、その便が狙われた。それ以前の千歳便は、遅れてはいるが飛んでいるようだ。遅い便も欠航予定はなく、すべて満席。翌日も最終便くらいしか空きがない。実際、このセミナーはいわく付きで、数年前も千歳の大雪でキャンセルしたことがある。でも今回は帰路がない。カウンター前は長蛇の列。全く動かない。空港担当者はキャンセルのみの対応などと叫び、キャンセル方法を書いたパンフレットを渡された。

かなり以前のこと、空港が今の天空橋近くにあつた時代。大学受験のときに似た経験をした。当時は進路に明確なビジョンが持てず、合格した大学が運命くらいに思っていた。選択科目の事情もあり、東京の名門私立大学の文系学部を受験した。試験が終わって羽田に着くと、千歳の天候不良で全便欠航。仕方なく、知人に頼んで泊めてもらった。しかし翌日も欠航。低気圧は千歳上空に居座つた。明後日は札幌医大の受験日。後がない。さらにチケットはスカイメイト半額。受験特権もあるのだろうが、不安もある。ネットはおろか、携帯もない時代だった。翌朝は早いもん勝ちだ。羽田空港のロビーに泊まると決心した。午後11時ごろだったのだろうか、カウンター前はシャッターで閉じられた。待ち合いのはずれに何とか横になれるソファを見つけた。翌朝、カウンターは開く前から人だかり。すぐにモノレール階にあつた券売所へ駆け降り、始発便を指定した普通券を購入した。誰も並んでいない。こちらの方が早い。カウンターに戻るとチケット所有者が優先された。当時は早割などなく、どの時間帯も均一料金。搭乗券を持って、直前にカウンターで座席指定する仕組みだった。ポロポロの体で受験前日に札幌入りが果たせた。

さて今回、ネットで調べるとJR北斗星に空きがあるらしい。いざ品川駅。一つだけ空いていたB寝台を購入した。寝台特急は高校の修学旅行以来だ。札幌には翌日の午前中に到着する。約16時間の旅にな

つた。2年後には寝台特急は廃止予定らしく、貴重な体験だったのかもしれない。

あのとき、もし札幌に戻れなかったら、東京での人生を選択したのであろう。実は札幌医大は幼児期に先天疾患で手術を受けた病院でもある。帰ってこられたのは医学部へ進む運命であつたからだろうか。背中に寝台のきつい振動を感じながら、どこかドブ川の臭いがした古い羽田空港での一夜を思い出した。

後日談：数日後、セミナーに参加した数名の先生に会う機会があつた。異口同音に「そんなことがあつたの？ なんも問題なく飛行機で帰れたよ」。真面目にセミナーを受けなかったせいで、私の運は吹雪で飛ばされたようだ。



雪の東京国立博物館（2014. 2. 9. 上野公園）



ようやく札幌駅にたどり着いた



## 道東の地域医療

釧路市医師会  
釧路孝仁会記念病院 理事長

### 齋藤 孝次

昨年の3月、病院協会の講演会の帰り、高速で何とか恵庭までたどり着き、一般道で道東へ向かうも、途中視界は遮られ、道路の境界もはっきりせず、ところどころ吹き溜まりで軽四輪などが立ち往生している。かなり無理をして進むも、このままでは遭難すると思い、運転している事務の者と相談し、札幌へ引き返した。翌日テレビ等で遭難して亡くなった方がいるというニュースを見て、自然の驚異を思い知らされた。

以前に釧路から中標津の外来のために車で移動していた医師が、閉じ込められて大変なことになったことがあるが、幸い無事救出された。

道東の地域医療は、この広大な地域で数少ない医師や医療機関によって支えられている。人口密度の低い集落から集落まで何もない広大な道東では、一次医療機関と釧路市に集約している二次・三次医療機関との強い連携と共に構築されている。

私たちは民間の小さな医療機関ではあるが、釧路市には三つの公的医療機関があり、大変頼りになる。その意味ではこの地域の住民も恵まれているといえる。しかし、地方の医師をはじめ、医療従事者不足は大変なものである。私たちは自分の病院でさえ医師をはじめ、医療従事者不足に悩んでいるところであるが、知床の根本の羅臼町から有床診療所運営を依頼され、私たちでは力不足でお引き受けできないと回答したが、結局、町長の強い粘り腰に負けてしまった。そのときの条件として提示したのは、自分の健康は自分が責任を持って守るもの、診療所は町民みんなが守るもの、ということだった。

夜間などのコンビニ受診をやめて、医師をはじめ、医療従事者が翌日の診療を行う余力を残すようにすること、もちろん本当の時間外救急はOKである。しかし、昼間から具合が悪ければ、昼間の内にかかってほしいものである。私たちが提供できる医療として、外来診療に関しては可能な限り町内でできる体制を構築すること、一次救急を二十四時間受け入れること、基本的に入院加療が必要な患者さんは中標津・釧路等で入院してもらう等、大まかな基本的戦略を立ち上げた。そのため、入院は一次救急的な入院、釧路などで急性期の入院加療が終わり、在宅までの一定期間の受け入れ、看取りの患者(在宅での看取り体制も構築していくが、どうしても病院希望の場合)などが入院の対象になること。

昨年9月より当法人が運営を開始したが、今年の

新年、町長の挨拶があり、町民が大変喜んでいてこと、とりわけ、透析患者が大変喜んでいてこと(5~6名)等が報告された。

この診療所を機能させていくために、なんとか固定医の確保がなされ、専門外来は札幌の医療機関から、釧路からも何回か応援に、そして看護師・リハビリ技師・放射線技師・検査技師・ME技師・事務など多くの人材の派遣を余儀なくされた。人材不足で困っている釧路から断腸の思いで派遣しているが、町民が喜んでいてということが、唯一やって良かったと思わせるところである。釧路の職員には過重労働が常に強いられ、ますます加速する人材不足を解消するために全国を走り回ってもらっている。

そんな中で札幌進出を考えた。札幌西区で病院を開設することにした。西区の地域住民に必要な急性期の医療の一翼を担える病院として、地域住民に喜ばれる病院として、地域の医療・介護施設と連携していきたいと考えている。そして余力ある病院として、地方へ人材を派遣できるような医療機関にしたいと考えている。今、大都市に医療従事者が集約されてきている中で、一定期間地方の医療にも貢献できる、そこに存在価値を見つけ、充実した人生の一部と考えられるような医師もまだまだいると考えている。みんながみんな、外科系の3K的な医療従事者として働くことが嫌な訳ではない。脳外科のように朝早くから夜中まで馬車馬のように働いて、でも患者や家族の笑顔がすべてを忘れさせてくれるような、そんな医師もいると考えている。

地球温暖化が進み異常気象が続いている中でも、毎年、本当にこれらの木々は生きているのだろうかと思われる。そんな冬景色も、夏には信じられないくらい青々とした緑あふれる姿を現す。同じ道東でも、根室と釧路では1ヵ月ぐらい気候が違う感じがする。根室ではもう木々の葉がないころ、釧路では紅葉があり、そして長い冬が過ぎ、春が来る。素晴らしい自然に囲まれた道東は、そんな自然の力強さを感じさせてくれる。

自然の中での人々の営み、多少でもその力となれることを目指して、多くの先生方のお力をお借りできればと考えています。宜しく申し上げます。

## 「あまちゃん」と江差線

函館市医師会  
函館渡辺病院

### 水関 清

ちょうど1年前の今ごろ、連続テレビ小説「あまちゃん」の放映が始まった。東北・岩手県三陸沿岸の北端にある架空の町・北三陸市を舞台に、東京で生まれ育った主人公・天野アキの、高校時代からの数年間を特有の軽快なテンポで描いて、社会現象ともいえる広がりを見せた稀有なドラマであった。

物語は、アキが北三陸鉄道の北三陸駅に降り立つところから始まる。夏休みを利用して、母・春子の故郷である北三陸に来たのである。春子によるアキの評価はきわめて辛辣で、いわく「地味で暗くて、向上心も協調性も存在感も個性も華もないパツとしない」性格だという。滞在中、海女である祖母・夏や、その仲間たちとの交流を経て、過疎化が進む北三陸の現実を知ったアキは、海女になる決意をする。

「海女になりてえ」

慕う祖母のもとに弟子入りを志願してようやく海女となったアキであるが、その初々しい姿が人気を集めて、地元のアイドルとなる。親友・ユイとの絆も結ばれる。そのころ、母・春子にも、アイドルを志して東京で暮らした若き日々があったことを知ったアキは、母を説き伏せようとする。

「東京さ行って、アイドルになりてえ」

地元アイドルたちを集めたグループのメンバーとしてスカウトされて東京に戻ったアキは、女優の付き人をしながら、アイドルになるため懸命に努力する。芸能事務所の社長兼プロデューサーとの確執を経て、母とともに独立したアキは、幼児向け番組に出演したことをきっかけに人気が出、有名女優との共演を果たし、『潮騒のメモリー』という映画の主演に抜擢される。

地震と津波で世情は大きく変わり、制作された映画は打ち切りとなり、悩んだ末にアキは、芸能活動を辞めて再び北三陸に戻り、地元のアイドルとして復興に携わり、その拠点として『海女カフェ』を再興する。

「おら、結局ここが一番」

ヒロインであるアキの目標は、周囲の人の影響を受けて、次々と変わる。母が目向けようとしなかった地元の「北限の海女」の活動を「かっけー」と評してあこがれ、尊敬する祖母に弟子入りする。その後は、親友やかっけの母が目指したアイドルにあこがれ、奮闘していくうち、徐々に「人を元気にする仕事」としてのアイドルの真価に目覚めていく。

「おらが東京さ行って、芸能界やらいろいろこの目

で見て、んでも結局ここが一番いい」

北三陸に帰ってきたアキはこう言い放って、「ここではないどこか」を求め続けてきた親友・ユイとともに、北鉄復興のシンボルである、お座敷列車に乗り込む。

この「あまちゃん」人気の後押しもあったためか、ドラマの中の北鉄のモデルとなった三陸鉄道も、2014年4月5日には南リアス線が、翌4月6日には北リアス線が運行を再開し、3年余りの期間を経て全線が再開通することになった。

\* \* \* \* \*

三陸鉄道とは対照的に、そのおよそ1ヵ月後の5月11日には、JR江差線の木古内～江差間の営業が終了する。この線は、1922年制定の、改正鉄道敷設法・別表第129号前段における予定線の一つとして計画されたもので、具体的には「渡島國上磯ヨリ木古内ヲ經テ江差ニ至ル鐵道」と規定された。1913年に五稜郭～上磯間がまず開業し、1930年に木古内まで、1935年に湯ノ岱まで、1936年11月10日には江差までが開業し、法で定めた渡島・檜山間に鉄道が全通した。

檜山の木材と海産物等の輸送で活況を呈し、1960年には準急「えさし」が臨時列車で設定され、1961年には定期列車として毎日運行された。当時のダイヤには、目を見張るものがある。準急「えさし」の函館発は10時33分、江差着は12時21分で、途中駅は、木古内、上ノ国も含めてすべて通過し、函館～江差間83.3kmの平均時速（表定速度）は、46km/時であった。なお、沿線の主要駅の一つである上ノ国駅のこの年の乗降客数は、31万5千人であったと記録されている。

1963年には、「えさし」のほかに「ひやま」「おくしり」「松前」が加わった、4系統の準急が江差線内を走るようになった。中でも江差駅には、函館からの準急が、8時20分、11時11分、17時03分と3度にわたって到着する活況を呈し、当時の江差線沿線の旺盛な旅客需要をうかがわせる。

江差線、木古内～江差間には、木古内側から、渡島鶴岡、吉堀、神明、湯ノ岱、宮越、桂岡、中須田、上ノ国の8つの中間駅がある。中でも上ノ国町域にある桂岡と上ノ国の両駅は、貨物輸送の盛んな駅としても知られていた。桂岡駅は、近くに鉄鉱石やガラス原料となる重晶石を産出する2ヵ所の鉱山を擁し、1955年の貨物取扱は約5万トンにもものぼった。1958年の鉱山閉山後もこの駅は、1975年までは貨物取扱駅としてにぎわった。上ノ国駅は、付近の中外鉱山などで産出されるマンガン鉱石の輸送が盛んで、近くには旧・国鉄関係者が多く暮らしていた。

現在の中間駅のうち4駅は木古内～江差間全通後の開業駅で、1955年に中須田、1957年に神明、1964年に渡島鶴岡・宮越の各駅がそれぞれ増設されている。中須田は桂岡～上ノ国間、以下同様に、神明は吉堀～湯ノ岱間、渡島鶴岡は木古内～吉堀間、宮越



は湯ノ岱～桂岡間に新設されたものである。中須田・宮越は上ノ国中心部に近い集落、神明は湯ノ岱集落の中に、渡島鶴岡は木古内中心部から内陸に入った集落、と各駅いずれも当時は乗客増加が期待される立地であったと思われる、当時の旅客需要の高まりをうかがわせる。特に中須田駅は、住民請願の結果設けられた駅で、正式開業に先立つ7年前の1948年に、住民総出でホームと木造駅舎を造成し、一部の列車が停車する臨時乗降場として出発した駅としても知られる。

北海道・本州間の旅客輸送において、シェアの上で航空機が鉄道を上回ったのは、1980年代のことである。1965年の時点で、国鉄（青函航路）が83%・航空は16%不足と鉄道優位だったシェアが、わずか10数年後の1978年には航空が60%・国鉄25%と逆転した（函館市史・通説編第4巻第7編コラム56）。そのころ江差線でも、急行の廃止（1980年）と貨物営業の廃止（1982年）が相次いだ。しかしながら、貨物輸送については、廃止された青函航路の代替として、青函トンネルを通る津軽海峡線が開業した1988年に木古内～五稜郭間で再開された。現在では、北海道・本州間の貨物輸送シェアの33%を鉄道が担うまでになっているが、木古内～江差間に貨物列車が再び通ることはなかった。

地方における鉄道需要の逡減の要因として、常に引き合いに出されるのは、「モータリゼーションの影響」である。ちなみに、「あまちゃん」の名脇役として名高い、ヒロイン・アキの母親・春子を一方的に想い続ける、北三陸駅駅長・大向大吉の口癖は、「モータリゼーションには負けてらんねえべ」である。具体的に見ていくと、まず世帯当たりの自家用車保有率は、1975年の約0.5から1995年には1.0を超えている。次に、高速道に自動車専用道を加えた、いわゆる高規格幹線道の総延長は、4,387km（1987年末）から9,855km（2011年4月）と、およそ2倍強に伸びている。また、居住地から高規格幹線道に1時間以内に到達できる割合は、面積カバー率で49%（1987年末）から、77%（2011年4月）になっている。

少し視点を変えて、諸都市と高規格幹線道との連絡状況について見ると、2011年4月の時点で、都道府県庁所在都市のすべてが、また人口10万人以上の都市の95%が高規格幹線道に連絡されている。しかしながら、10万人未満の生活圏中心都市のそれは31%にとどまり、「あまちゃん」の北三陸市のモデルとなった岩手県久慈市と、江差線の終点北海道檜山郡江差町は、まさにこの範疇に属する。

JR北海道が発表した、「江差線（木古内・江差間）の鉄道事業廃止について（2012年9月3日）」という資料によると、2011年の輸送密度（平均通過人員）は41人/日であったという。

$$\text{輸送密度} = (\text{路線の1年間の旅客輸送人キロ}) \div (\text{路線の営業キロ}) \div (\text{路線の1年間の営業日数})$$

なので、42.1kmの営業区間を、定員96名のキハ40系気動車1～2両で、1日6往復を運行する江差線（木古内・江差間）の場合、江差～木古内間を乗り通す乗客は、1運行あたり3人強ということになる。江差線廃止の報を聞いて以来の江差線の混雑は座れない乗客が出るほどで、しかも江差～木古内間を完乗する乗客がほとんどである。それまでの輸送密度の1日分を、1運行で軽く上回る状態が続いていることになる。

廃止の報を聞いて以来の、この江差線の混雑ぶりはどうだろう。素朴な沿線風景、豊かな天ノ川の流れが長い年月をかけて刻み込んだ渓谷に訪れる四季の美しさ、貨車改造駅舎や木造駅舎などのユニークな駅のたたずまい、信号保安システムの自動化が進んだ今となっては珍しい、スタッフ交換という働く人の姿が前面に見える安全運行のための営みなどの鉄道施設。この鉄道がもうすぐなくなる、ということが契機となって喚起された需要なのだろうか。

江差線全体の輸送密度は2,460人/日、これに接続する海峡線のそれは4,469人/日と、江差線（木古内・江差間）の数十倍から百倍を超える数である。この乗客の何割かでも江差方面に導くことができれば、41人/日というような数にはならないはずである。江差は、そこで今も息づく文化遺産満載の町である。江差線廃止の報によって、「一度は訪れてみたい」という潜在的願望が、人々の意識の中に顔を出し、『小さな旅』へと誘っているのかもしれない。

筆者はかつて、北海道新幹線開業後の江差線の望ましい運行形態を論じたことがある。それは、①乗客の多い五稜郭～上磯間への函館からの直通列車乗り入れ、②乗客の少ないとされる上磯～木古内～江差間には、運行コストが安いデュアル・モード・ビークル（Dual Mode Vehicle:DMV）を導入する、ことからなる提案であった。DMVは、JR北海道で発案されてすでに各地で試験運行も実施された、鉄道の線路上も走行することのできる鉄輪を付加したマイクロバスである。基本的な構造は一般的なバスとほとんど同様のため、駅から離れた町々を巡って鉄道路線に乗り入れることも可能である。駅と町並とがやや離れた位置にある場合などにはその効用は大きく、江差駅や上ノ国駅などは有力な候補となり得る。将来、車両の走行性能と乗客の居住性がさらに向上すれば、江差駅や木古内駅から国道228号線経由で、渡島半島西部の海岸線を巡って、松前に足を伸ばすことが可能な日が来るかもしれない。そうすれば、沿線の江差、上ノ国、松前に住む人の利便性に加えて、この地域の観光振興に果たす役割も大きいものと考えられる。新幹線開業後は、この魅力あふれる地域に、東京からわずか3時間30分前後の時間で訪れることができるようになるのである。

渡島半島西部は、歴史文化遺産が豊富なことで知られる。

たとえば、江差追分。江差の風に吹かれながら、  
鷗島のベンチに腰かけて見る日本海。

♪かもめのなく音にふと目をさまし

あれが蝦夷地の山かいな♪

有名な江差追分の一節であるが、眼前に広がる日本海の波頭の揺らぎを眺めていると、追分の独特の抑揚と節回しが、目の前の波のうねりといつの間にか同調していることに気付く。

そして、振り向けばそこには開陽丸の姿。榎本武揚に率いられてきた旧幕府軍海軍力の支柱ともいうべき存在であったこの船は、厳冬の江差で、同じ日本海の風浪に翻弄されて座礁し、その後の歴史の転回点となった。

北前船（弁財船）による大阪・堺との商取引が盛んに行われ、商業、産業の町として繁栄を極め、文人墨客の来遊も多く、この町から北海道の文化が開花したと言っても過言ではないとされる松前藩政時代から明治に至るまでの江差、近世の貴重な遺跡のある上ノ国、北海道で最も古い城下町である松前や、箱館戦争の史跡が所々に残された渡島半島各地は、幕末から明治にかけての歴史遺産を豊富に抱えた、ほかにはない特徴のある地域なのである。

\* \* \* \* \*

夢をコロコロ変えては周囲の大人たちを振り回していた「あまちゃん」のヒロイン・アキは、地元に戻り、一番好きな場所で自分らしく生きると決めた。

アキは、いろいろ失敗し、あれこれと悩む。その

姿を見守る周囲の人々も、アキと出逢うことで、ものごとを異なった角度から見ようとする。独立しているものだと信じ込んでいた自分の存在は、他者との相対性の中において規定されるものであったことに気付くと、悲劇だと思っていたことが、いつの間にか喜劇だと思えるようになってくる。

ヒロインの母・春子は、こう語る。

「田舎が嫌で飛び出したヤツって東京行ってもダメよね。逆にさ、田舎が好きの人って、東京に行ったら行ったで案外うまくやっていけんのよ、きっと」

「あまちゃん」の中で、ヒロイン・アキのしぐさや行動や言葉の一つ一つに託されて、濃密に描かれた「肯定の思想」。自分の周りに起こることを一度肯定すること。そうすることで、自分の中に息づいている多様な他者の力は自分を助け、現実に対する変革の力となる。アキが新天地を目指す際の別れは、テンポよく密度濃い会話を盛り込んで、特に丁寧に描かれ、現実は無駄なことはないという思いが伝わってくる。

今いる場所を、大切に。後を振り返らずに、今を振り切ることはしない。過疎化の波に洗われていても、海や食べ物やローカル線やそこで暮らす人々のかけがえのなさを感じ、それを決して忘れない。

それは、江差線、そして江差線が走る町々の底力なのである。



写真1. 開陽丸を後方にのぞみながら走る



写真2. 景勝地にある第1天ノ川橋梁を渡る